

お知らせコーナー

■〈シンポジウム〉

「21世紀の義務教育はこうなる」(仮称)

1月31日(土)午後2時～5時

宮前市民館菅生分館

主催 地域教育会議・生涯学習委員会

■〈第2回桜植樹祭〉2月22日(日)

「川を生かしたまちづくり」

ーコミュニティ・スクエア蔵敷をめざして

低木のガーテニング植栽も行政で予算化され、平瀬川は地域の名所になりそうです。近所の方々など多くのボランティア・ガーテニング隊ができてつづあり、雑草取りやゴミ拾いをしてくださっています。蔵敷花壇も増やす段取り中です。なお、宮前区区づくりプランの向丘地区の専門部会が立ちあがります。詳しくは事務局松井(☎976-2300 FAX976-7502)まで。

菅生申マラソン大会 12月6日(土)

完走できてよかった

もう一息だ、がんばれ!次から次ぎへと顔を紅潮させ、息をはずませてゴールに飛び込んでくる生徒たち。コースは西長沢公園を出発して潮見台浄水場を回り、西長沢公園にもどる男子4.1km、女子2.6km。大会10日前から朝練習などして全校で取り組み続けてきた努力が成果として発揮されるときです。

「去年よりも順位が上がってうれしい」「成績はぱっとしなかったけど、完走できてよかった」額にうっすらと汗を浮かべ、上気した生徒たちは、みんな満ち足りた顔をしていました。当日の見学者は、大会の係の仕事を手伝ってくれました。来年は元気で走れるといいね。(神原敏明)

■蔵敷こども文化センター

☎977-2577

★もちつき/カルタ取り大会

1月10日(土)午後1時30分～4時30分

★地域ふれあいコーナー(ゲーム・

いも煮会他)1月24日(土)午後1時30分～3時30分

★工作教室「ひな人形作り」

2月14日(土)午後1時30分～3時30分

■宮前市民館菅生分館

☎977-4781

★女性セミナー「女の危機管理術」

1月23日～3月20日(毎金曜10時～12時全9回)突然ふりかかる危機への心の準備と女性の生き方。無料、先着40名(保育あり)

〈申込み〉1月8日(木)10時～

★成人学校「古典文学裏道散歩」

1月23日～3月27日(毎金曜午後1時30分～3時30分全9回うち文学散歩1回)古典文学の世界にふれてみたい方におすすめ。4千円定員40名〈申込み〉1月7日(水)午前10時直接来館

編集室から

☺ご意見、情報、投稿をどしどしお寄せください。

〈取材〉磯谷/藍郷/高木/七浦/水谷/神原/生駒 〈編集〉生駒

菅生中学校区地域教育会議ニュースレター(14)

1997年12月18日

発行: 菅生中学校区
地域教育会議

編集: 広報委員会

事務局: 菅生中学校

☎977-8787

どらりあんぐる菅生

お年寄りと子どもの



ふれあいレクレーション

中学生 大活躍

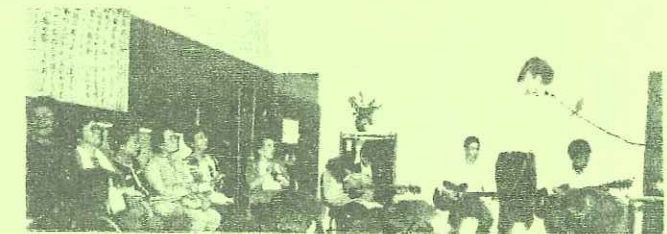
《主催 ふれあい委員会》

10がつ25にち

蔵敷こども文化センター

この会は、地域のお年寄りと子どもがふれあう場をつくろうと、菅生中学校区地域教育会議の「ふれあい委員会」が毎年企画しているもので、今年で4回目になる。幼児からお年寄りまで、約80名が集まった。

重い楽器を背負ってやってきた中学生たちは会の盛り上げ役。司会やゲームをてきぱきと進めた。なかでもこの日のために結成したバンド演奏と寸劇に人気が集。会場に笑いをふりまき、遠まきに見ていた菅生中の吉原教頭先生も、お腹をかかえて笑いころげるほど。ギター伴奏した山田先生によると、子どもたちは毎朝早く学校へ来て練習に励んでいたとのこと。



ダンスや体操で体を動かし、童謡をうたい、世代を超えて楽しむムードで会場は熱気につつまれた。

参加したお年寄りは「バラエティに富んでいておもしろかった。懐かしい歌をおもわず声をはりあげて歌った。中学生は素直でおもしろい。一生懸命やってくれてうれしい」とほころび顔。委員さんの一人は、「山田先生が子どもたちに接している姿に温かみを感じた」とも。委員さんたちの心づくしの豚汁で身も心も温まった。(七浦)

主役はこどもたち

歌 いっぱい やさしさ いっぱい



菅生小創立30周年記念式典が11月8日、同校体育館で行われた。東京シンフォニック・アンサンブルのオーケストラ伴奏で、全校児童による「つたえよう明日へ」の大合唱で開会。

主役はこどもたち。学年ごとに披露される合唱の間を、校長先生や教育長、来賓の挨拶がつなぐ。壇上からではなく参加者とフラットな場での挨拶が新鮮。

式典のプログラムも、押し花のしおりも、子どもたちの手作り。子どもたちが種から育てたという桜草のプレゼントも。地域の特性を生かした自然を愛する心を育てる環境教育実践校だけあって、優しさがあふれる式典となった。代表の児童は「温かく、厳しく、見守ってください」とメッセージを結んだ。

参加者からは「先生方が地域を受け入れてくれるのが嬉しい」「一心に歌う子どもたちの姿が感動的、涙がとまらなかった」「オーケストラが子どものひきたて役に徹しているので驚いた。本物の楽器が奏でるぬくもりに包まれた式典だった。やっぱり、子どもには本物が似合っている」と口々に話していた。（生駒）

♡『保健室発・・・子どもが求めているもの（とらいあんぐる13号）』を読んで---

保健室は家庭の代わり?



心いやされる家族に

子どもが小学校入学後、しばらくして、大荒れ状態が続いたことがある。担任に学校での様子をたずねると、「学校では緊張している子でいるのだから、家でお母さんに無理を言ってバランスをとってるんですよ」と言われた。ナルホドと納得。親が見えない子どもの学校生活を思いやって、家での子どもを受けとめることにした。保健室って、学校の中の家庭の役割をしているのかなあ。子どもが保健室でしてもらっていることって、家ではしてもらっていないのかしら。（伊藤千代子）

子どもの生活の場である家庭と学校の、親と教師が信頼関係を築く上で大切なことは、お互いに「知る」ことだと思ふ。その意味で「とらいあんぐる菅生」が伝える内容はとても大事でありがたい。三校の保健室の様子を知り、保健室は子どもたちにとって家庭に近い存在なのかなあと思った。体や心が傷ついた時や疲れた時に休める所なのだろう。そんな保健室にしてくれている先生方、ありがとうございます。私は家族皆の心がいやされるような家庭に、家族皆でしていきたいと思う。（瀬尾節子）

稗原小 親子ふれあい バザー

11月2日(日)

実行委員長の合図とともに、餅、豚汁、フランクフルト、雑貨の数々・・・それぞれのコーナーに人々が集まった。特に、お餅のコーナーには長い列ができ、あつという間に売りきれほどの人気（食べたかったナア）。

雑貨コーナーでは、我先にとお気に入りの品を両手いっぱい買い求める人もいた。約2時間ではあったが、盛況に終了した。

来年もお楽しみに。（磯谷）



実行委員を体験して、不安、ハプニング、喜びなどすべてが自分にプラスになり、まわりの方々の人間模様も観察でき、良い経験ができました。（藍郷）

やった！ひけたよ ロス・ネリモスの地球音楽コンサート

11月15日の午後、エコロジック・バンド、ロス・ネリモスが菅生こども文化センターへやってきた。ケーナ、チャランゴ、尺八など世界の珍しい楽器を使い、世界各地の曲を演奏。大地の声、木々の響き、風の歌、地球からの贈り物を音楽に表現する。幼児も大人もみんなで「大きな古時計」を歌い、卵のマラカスで合奏。この自然をイメージしたネリモスのサウンドは、現代人が忘れたものを思い出させてくれるようだ。（生駒）

★菅生こども文化センターで、ボクたちのコンサートを楽しんで下さってありがとうございました。こどもたちの反応がまっすぐにボクたちに伝わってきて、とてもとてもたのしく演奏できました。飾らずに、「スガオ」のままで生きているいいこどもたちでした。（ロス・ネリモスのおたよりから）

白熱 親睦ソフト大会

12月6日(土)午後、菅生中校庭で、父母対教職員の親睦ソフトボール大会が行われた。父母23名、教職員17名が参加し、2チームに分かれて熱戦を展開(?)。勝敗にはこだわらず楽しくやりましょうとの始めの挨拶はどこへやら、試合はだんだん白熱。歓声・笑い・拍手の中で回は進み、終わってみれば両試合とも勝利は父母チームのものとなった。

試合終了後、会場を金工室に移して懇親会が行われた。お母さん方の心づくしの豚汁や手料理をいただき、話がはずむなかで予定の時間となった。「来年もぜひやりま

第24回文化祭/ステージ 合唱の部

10月28日(火)、恒例の菅生中文化祭、ステージの部と合唱の部が開催。同じ目標に向かう子どもたちの姿が感動的。熱心に練習した成果が現れていて安心することができた。（藍郷）

しょう！」との声あがり、楽しいひとときは幕を閉じた。「ぜひやりましょう！」とは、今回破れた教職員チームの希望でもある。（神原）